

ひめじ市民法律事務所

市民法律だより

明けましておめでとうございます

愛する者には言葉を贈れ
 その人を守護する
 言葉の護符を贈れ
 朽ちることなきものを
 捧げたいと願うなら
 言葉を贈れ
 願いを込めた言葉ではなく
 無私なる祈りにつらぬかれた
 言葉を贈れ
 その生涯を祝福する
 言葉の護符を贈れ

『言葉の贈り物』
 若松英輔

この1年、ロシア・中国だけでなく米国の振る舞いが、国際秩序の変化を加速させてきました。東アジアの地政学リスクを念頭においた防衛費の増額や、憲法改正に向けた動き、経済性や安定供給が優先される形で原発再稼働の推進政策の定着、赤字国債増発による積極財政。2025年下半期は、これまで「逆コース」と感じられたものが、より日常化し、肯定的な表現に置き換えられていく、そんな転換点の空気に覆われました。

ただ、そうしたことは「コロナ禍」でも起きています。「三密回避」という非日常は、あの数年、一旦日常化し、潮目が変わると死語となりました。ことほど然様に、時代とは大きな振り子。寄せては返す波のようなものです。

抽象的ではなく具体的に、私たちは、周りの世界に何を望むのか。それを望むのならそのために、誰の力を得て、誰に、どういう方法で、どういう声を届けるのか。そうしたことを、極めて現実的かつ実際に積み上げる仕事も、私たち^{在野}法曹の大事な仕事です。

今年も、たしかに、よい仕事を、1つずつ丁寧に積み上げたい。

新しい年が、皆様にとって、そして世界にとって、希望の光に満ちた佳い一年となるよう心から祈念して、新年のご挨拶と致します。

2026年(令和8年)1月

所員一同

発行責任者

〒670-0952 姫路市南条10-4

ひめじ市民法律事務所

弁護士 平田 元 秀

電話 079-282-0430

FAX 079-282-0433

<https://himejishimin.com/>

事務所営業時間

月～金 午前9時30分

～午後6時

土曜日 午前中 予約相談あり

コンテンツ

新年のご挨拶	1
弁護士の小話	2
つれづれなるままに	3
アンケート	3
事務所旅行	4
編集後記	4

還暦を迎えて

平田元秀

このたび、まるく還暦を迎えましたので、そのお話しをしようと思います。

ψ ψ ψ

11月に無名塾の仲代達矢さんが92歳で他界されました。三船敏郎さんと共演された黒澤明監督の『用心棒』『椿三十郎』は、今見ても心が沸き立つ最高の映画です。そこから60有余年。無名塾を主宰し、若い俳優達を育てながら、舞台に立ち、演劇を通じて人間の尊厳を問い続けたその姿勢は、まさに「生涯現役」の証でした。

私と同じ年の日本の芸能人、俳優を調べてみました。中森明菜さん、ヒロミさん、「爆笑問題」の太田光さん、「ナンチャン」の南原清隆さん、「今でしょ」の林修さん、俳優の香川照之さん、古田新太さん等々。

確かに同世代は、親近感が湧きます。もちろん、仲代さんと比べることなどできない訳ですが、還暦といっても、全然若い。60代・70代にも、あまた現役活動中の先輩がいらっしゃる。芸能界や役者の世界では、立ち位置として押しも押されぬ存在と言われれば一応そうではあるとしても、「自分なんてまだまだです」と。

「仲代達矢さんのように、職業に誠実に向き合う姿勢を生涯貫く覚悟、あなたにもありますか。」“弁護士平田元秀”がマイクを持たされ、仮にそう問われたとすれば、そうですね。「小生、これまで、粉骨砕身、懸命に働いて参りました。お陰様でこのたび、還暦を迎えることと相成りましたので、許されることならば、もう少し余裕を持ちちゃったりなんかして、自然体で、好きに過ごさせてもらえるものならばと、そう願っている、全く精進の足りない平凡な男でございます。」と答えちゃいますね。

でも、そう述べてみて、それは、「願い」と「祈り」の真ん中ぐらいのところでそう述べているのだと、気付きます。

これからは本業以外の事柄へのチャレンジの時間も大事にしたい。でも、法律実務家の仕事も、役者の舞台と同様、舞台に立つ（準備書面を出す、尋問に臨む、講演をする、研究発表をする）前の準備が全てで、細かい作業の積み重ねと、日々

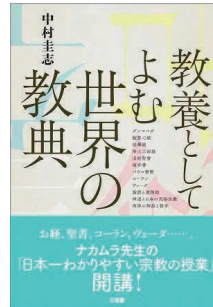
の研究の手間暇を惜しんでは良い仕事はできず、そうした丁寧な作業の中にごそ生命は宿ります。そのまっすぐな構えは譲れません。その両方を、業務省力化もフル活用しつつ、成り立たせようと懸命に努力することが、結局は、60代以降の、私の弁護士としての社会貢献の質を高めるのではないかと。

“弁護士平田元秀”にも、余生を「生かされている使命」のようなもの、それがあるかもしれない、もしそれがあるとすれば、それはきっと、にじみ出てくるようなものだろうと思っています。

θ θ θ

今私が愛読している本は、「教養としてよむ世界の教典」（2016年・中村圭志）です。何度か読み直しています。

こうした「宗教教養」を楽しむ時間は、美術館・博物館巡りの趣味の延長線上で派生してきたも



のですが、禅や真宗などの「仏教系 YouTuber」の視聴にも転じました。新刊では「ユダヤ人の歴史」（2025年・鶴見太郎）に取り組んでいます。これとは別に近時、「赤松一族の中世」（2025年・前田徹）を通読しました。前田さんは、兵庫県立歴史博物館の学芸員として、播磨における中世の終焉を、中世の守護家として姫路の置塩城にいた赤松則房（赤松円心の三男則祐の子孫）から、姫路の御着城の小寺政職などの国衆が自立して、毛利方についた時であると見立てました。激動期を生きる私たちにとって、地域で『中世』と呼ぶべき時代が終わっていく過程を具体的に跡づけたこの研究は、大変示唆に富むものといえます。

宗教や歴史を紡ぐ作品や仕事にも、これは面白い、興味深い、と感じる年齢となったことを喜びながら、これからのステージを楽しんでいきたいと思っています。

（2025年11月24日記）



新潟に、塩引き鮭に思い馳せて

大川 亜希



浅田次郎の「大名倒産」。2023年に映画にもなっているというこの本は、知っている人も多いのではないのでしょうか。

まさに笑いあり、涙ありの物語で、登場人物それぞれの行動にはそれぞれの信念や考えがあり、良いところも悪いところも、「人」がとても魅力的に描かれています。

風景描写も素晴らしいです。主人公小四郎が先祖代々の故郷であり、自らが藩主として治めることになった丹生山の景色。まさに故郷というもので、日本人なら誰でも共感できるのではないのでしょうか。私も丹生山に帰りたくなりました。

また、何より外せないのが、丹生山名産の塩引き鮭の美味しそうなこと！あまりにも美味しうだったので、丹生山のモデルになったという新

潟県村上市の塩引き鮭を通販で購入してみました！

ほくほくの身に、塩が効いていて、白ご飯にとてもよくあって、すごく美味しかったです。いつか新潟県で、現地の塩引き鮭を是非食べてみたいものです。どうでしょうか、この文章を読んでいると、塩引き鮭が食べたくなってきたのではありませんか？ ちなみに私は、鮭と一緒に納豆ご飯にするのが好きです。

「大名倒産」はAmazonのオーディブルで聴くことができますが、聞き続けるうちに武士言葉が身についてすっかり「かたじけのうござる」などといわないように気を付けたい日々です。



事務所員アンケート

事務所員全員にインタビューしました!!

今年楽しみにしていること



一つ目は、昨秋小さく立ち上げた「山部」の部活。いつものメンバーに新しい方も加えて、里山の懐にある四季折々に触れ、アルプス級の山並みが見せてくれる別世界を体験する。

二つ目は、東京にいる孫娘の成長です。この楽しみにかなうものは…、見当たりません。

(平田)

まずはGLAYのプレミアムライブ&春のホールツアー!!
そして何も発表されていませんが、今年もあるといいな、スキズ (Stray Kids) のライブ!!

また孫娘と一緒に三世代参戦したいです。(いつか、ソウルのコンサートに行けるように韓国語もゆっくり勉強中!!)

(美)

1 今毎週のように、追いかけているコウノトリ。いろいろなため池を巡り、そこで出会った方と情報交換し、また追いかける。今年ももっといろんな人と交流し、イベントに参加します。

2 老親を連れて、ゆっくり美味しいものを食べて温泉巡り

(ひ)

1 漫才・コントがけっこう好きでして、お正月のお笑い番組はいつも楽しみにしています！1年の始まりを笑いで楽しく！！

2 3月にナオミ・ノヴィクの「テメリア戦記」第9巻の発売があることです！テメリア戦記の最終巻であり、大変楽しみにしております。最終巻まで翻訳していただけた最高の物語です。今は1巻から文庫版も出ています！ぜひ。

(大川)

1. 今年は何と言っても、娘と嵐のライブに行くことです。(当たりますように🙏)

2. 2026年大河ドラマ「豊臣兄弟」

主人公は秀吉の弟、秀長。歴史にif(もしも)はないものの、秀長が長生きであれば、豊臣家の天下は、どうなっていたのか…。どのように描かれるのか楽しみです。

(M)



事務所旅行 「ワンダーランド滋賀・琵琶湖」

秋恒例の事務所旅行は滋賀湖南の旅。

一日目は信楽の山の中にあるMIHOミュージアム、二日目は紫式部ゆかりの石山寺と、戦乱による焼き討ちなど幾多の苦難を乗り越え「不死鳥の寺」とも呼ばれる三井寺を訪れました。

MIHOミュージアムはループル美術館のガラスのピラミッドで知られる建築家I.M.ペイの設計で、桃源郷をイメージして造られているのだとか。入口のレセプション棟から美術館棟へ続く緩やかな曲線のトンネルと吊り橋は季節ごとに表情を変えて出迎えてくれます。美術棟に入るとエントランスホールから山々の稜線がパノラマのように広がり一枚の絵のよう。私たちが訪れた時は、特別展「近江の名所」が開催されていて、池大雅の琵琶湖近江八景図や鈴木基一の琵琶湖入江遠望図、石山寺縁起絵巻模本などもあり、石山寺や三井の晩鐘、瀬田の唐橋や浮御堂などの近江八景が描かれた絵画や工芸品が展示されていました。

コレクション展示では、金やラピスラズリで装飾された古代エジプトの隼頭神像をはじめ、可愛らしい青のカバ像、山猫型や馬型の角杯リュトン、ガンダーラの仏立像、中国の儀式用青銅器や愛嬌のある立女俑（墳墓の副葬品）など古代の美術品が数多く並んでいて、時間が足りない!! 駆け足で観て回り、音声ガイドを聴くのは断念。もっとゆっくり観たかったなど残念すぎて、思わず分厚いコレクションの図録を買ってしまいました。また機会があれば訪れたいです。



二日目は、源氏物語の着想を得たとされる石山寺へ。迫力ある仁王像が出迎える東大門をくぐり、長い階段を上ると名前の由来にもなっている硅灰石の雄大な姿が飛び込んできます。本堂（国宝）で、十一面観世音座像や弁財天、不動明王座像などが安置された内陣を拝観。同じく国宝の多宝塔、紫式部の肖像や源氏物語ゆかりの絵画・工芸品が展示されている豊浄殿などを見学しました。



午後からは三井寺（長等山園城寺）を参拝。

檜皮葺の美しい仁王門をぬけ、近江八景のひとつとして、また音色の美しさで「天下の三名鐘」としても名高い三井の晩鐘（実際に鐘をつくことができます）の音色を確かめ、国宝の金堂へ。金堂内には、大日如来や尊星王像、不動明王、閻魔王など大小様々な仏像が安置されていました。また「弁慶の引摺鐘」は、比叡山へ引き摺り上げた鐘の音が「いのう（帰りたい）」と聞こえたことに腹を立て谷底へ投げ捨てたとされる逸話とともに迫力満点。残念ながら、書院造の光浄院客殿と主殿造の勸学院客殿の二つの国宝は見学できなかったのですが、文化財収蔵庫で狩野光信の障壁画や襖絵を鑑賞し、観音堂や釈迦堂を巡って御朱印をしっかりといただき、帰路につきました。

それにしても琵琶湖は広い!! また他の場所にも是非足を運んでみたいです。 (美)

編集後記

あけましておめでとうございます。

第32号事務所報を、無事お届けすることができました。

今回のアンケートでは、「今年楽しみにしていること」をテーマに所員の楽しみを聞いてみました。皆様は、今年どんな楽しみをお持ちでしょうか。

楽しみを想像することや、希望をもつこと、口にすることで、心がハッピーになったり、笑顔になれると思うのです。

さて、今年も、午年です。エネルギーと行動力が高まる年とされているそうです。

皆様にとっても、エネルギーに満ちた一年になりますように。

本年もよろしくお願いたします。

(M)